

Special
Olympics
Nippon



スペシャルオリンピックス

～共生社会の架け橋となる
知的障害者スポーツ活動～

公益財団法人
スペシャルオリンピックス日本
渡邊浩美



©Special Olympics Nippon



- ・障害のある人たちのスポーツ
- ・スペシャルオリンピックス
- ・共生社会の架け橋
ユニファイドスポーツ



障害がいのある人たちのスポーツ

第2次世界大戦後、多くの国々で傷病兵のためのリハビリテーションの手段としてスポーツが取り入れられ、「競技スポーツ」へと発展していった。

現在では、障害者の余暇活動として、また、社会参加の重要な機会として捉えられるようになっている。

- 最古の障害者スポーツ組織：
1888年(明治21年)ドイツで始まった聴覚障害者のスポーツクラブ
- 最古の障害者の国際的スポーツ競技会：
1924年パリ開催「第1回国際ろう者競技大会(現デフリンピック)」



障害者の日常的なスポーツ

◆スポーツ・レクリエーション未実施率

成人一般(22.8%) 成人障がい者(58.2%)

◆成人障がい者のスポーツ・レクリエーション参加を阻む要因

- ・体力への不安 ・金銭的な余裕の無さ
- ・実施できる場所や移動手段が無い ・仲間がいない

文部科学省(2013、笹川スポーツ財団 文部科学省委託)の地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究より



スペシャルオリンピックス (SO) とは

SOは知的障がいのある人たちにスポーツトレーニングの機会を提供する国際的組織です

SOでは、活動に参加する知的障がいのある人たちをアスリートと呼び、スポーツを通じて彼等の社会参加を応援しています。

歴史

1962年

故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が、自宅の庭でデイ・キャンプを開催

1968年

ジョセフ・P・ケネディJr財団の支援により組織化「スペシャルオリンピックス」となり、世界へと広がった

1988年

国際オリンピック委員会 (IOC) との間に、「オリンピック」の名称使用や相互の活動を認め合う議定書を締結

現在

本部をアメリカ、ワシントンD.C.におき、世界170の国と地域で、約470万人のアスリートと130万人のボランティアが活動に参加



©Special Olympics Nippon

国内活動の現状

- ・8,480人のアスリート、約13,000人のボランティアが活動に参加
- ・47都道府県に支部（地区組織）があり、県内での活動を展開
- ・夏季17競技、冬季：7競技の計24競技のスポーツプログラムを実施

活動内容

スペシャルオリンピックスの活動には、競技レベルに関わらず、知的障害のある人なら誰でも参加できます。

また、競技会・大会を開くだけでなく、日頃から一緒に練習する（トレーニング）機会を提供していることが特徴です。

1) 日常スポーツトレーニング・プログラム

地域の施設を会場に、ボランティアによる運営・コーチングのもと、アスリートたちは様々なスポーツプログラムに参加しています。

2) 競技会

日頃の練習の成果を発表する場として、地区大会、全国大会（ナショナルゲーム）、世界大会（ワールドゲーム）等、さまざまな規模の競技会が開催されています。



スペシャルオリンピックスの参加者

1. アスリート(知的障がいのある人で趣旨に同意し、
チェックを受けて登録した人) メディカル
2. ファミリー(アスリートの家族)、
ボランティア(コーチや事務局の仕事をしたり、
すべての活動を支えてくれる人)
3. パートナー(ユニファイドスポーツ®を一緒にする人)

一人ひとりが、大切な参加者です



スペシャルオリンピックスの活動

内容

- 知的障害のある人
- 1年を通じて
- オリンピック形式のスポーツ
- **トレーニングと競技会**

適切な指導と励まし

一貫したトレーニング

同程度の技術・競技レベルの
アスリートとの競技

目標と結果

- 体力の向上
- 勇気と楽しみ
- スポーツ技術の向上
- 友情・交流(家族、アスリート、地域)
- 社会性の発達

個人の成長
家族の絆
社会への参加



ヤングアスリート™プログラム

ヤングアスリート™は、知的障害のある子ども達を対象にした、スポーツと遊びを融合させたユニークな活動です。楽しめる活動であることを一番大切にしており、さらに知性や身体の成長についても考えられています。

- **アスリート: 2歳半から7歳の子どもが対象**
スポーツの基礎となる遊びのプログラムによって、身体と認知、社会性の発達を促す
- **ファミリー:**
知的障害のある子供達を持つファミリーがSOのサポートネットワークの一員となる
- **地域社会:**
仲間(障害のない子ども達)と一緒に活動に参加したり、発表会やその他イベントを通して、知的障害のある子供達の能力についての理解を広げる





MATP(モーターアクティビティーズトレーニングプログラム)

- 重複障害や、より介護度の高い人が対象です。
- 個々のできることを表現し、競い合いはしません。
- 参加すること、人と交流すること、地域へ出て行くことを 大切な目標と考えています。





アスリート・リーダーシップ・プログラム(ALPs／アルプス)

アスリート自身が、SOの活動に幅広く参加するための学習プログラム。
アスリートの考えを、積極的にSOの活動に取り入れます。

ALPsを通して色々な機会に活躍できます。例えば・・・

- メッセージャーになってSOの広報活動をする
- コーチ、競技役員になってスポーツの指導をする
- アスリート会議に出席して重要な方針を決める
- 理事になってSOの組織のことを検討する
- 事務局のスタッフになって運営に関わる・・・など



© Special Olympics Nippon



© Special Olympics Nippon



ヘルシーアスリート®プログラム(HAP/ハップ)

HAPの使命は、アスリートの健康の増進と、スペシャルオリンピックスでトレーニングや競技をするための能力を高めることです

- 健診を通じて、アスリートの健康状態のチェックや教育を行うと共に、アスリートの健康管理について家族・コーチへの啓発も行います。
- 知的障害のある人の独自のニーズや、彼らとのコミュニケーションの仕方、配慮の仕方などについて、医療専門家や医療を専攻する学生に理解を深めてもらいます。
- SO国際本部では、知的障害のある人の健康状態やニーズに関するデータを集め、分析し、その情報を各国に展開しながら、アスリートが直面する健康・医療上の問題について、世の中の認識を喚起しています。



© Special Olympics Nippon



© Special Olympics Nippon



© Special Olympics Nippon



© Special Olympics Nippon



共生社会への架け橋となる新しい参加の機会

ユニファイドスポーツ® プログラム



- 知的障害がある人(アスリート)とない人(パートナー)が共にチームメイトとしてスポーツに取り組む、SO独自のプログラムです。
- 全てのアスリートが対象です。
- アスリートとパートナーは日頃から一緒に練習し、競技中は「チームメイト」、日常では「仲間」「友だち」としてお互いに相手の個性を理解し、信頼しあい、助けあう関係をめざします。



© Special Olympics Inc.



© Special Olympics Inc.



© Special Olympics Nippon



スペシャルオリンピックスが目指しているもの



共生社会の実現